

国語科研究部会

I 研究テーマ「楽しく力のつく授業づくり」

II 研究テーマと設定の理由

「楽しく力のつく授業づくり」をテーマに研究を進め、今年11年目となる。今日、「国語の力は、コミュニケーション能力や情報扱う超能力、論理的思考力など、様々なものが求められている。その中で、本会の研究テーマは、なにより学ぶ楽しさ、つまり国語の学習や学習内容への関心意欲が大切であるという考えに基づいている。「関心・意欲・態度」という情意面も国語の大切な学力と捉えようとするものである。

このテーマのもと、研究を深めるために、第1の課題として「楽しさ」の中身が検討されたくてはならない。そして、その上で「手立て」をいかにするかが検討されるべきである。第2の課題として、私たちが生徒につけようとする「国語の力」はどのようなもので、それらをどのような「手立て」でつけさせるのかを検討すべきであると考えた。これらを踏まえ、新学習指導要領の完全実施となって2年目となる本年度は新学習指導要領の指導目標を実現する指導案作りを意識して、研究を行うこととした。

III 研究の経過と内容

・今年度の活動計画

研究日	研究内容
4月11日	全体研究会 学年部会研究 年間計画 組織の確認
5月14日	学年部会研究 年間案計画 教材授業者決定
6月18日	学年部会研究 指導案検討
7月31日	県立図書館レファレンス 学年部会研究 指導案検討
8月16日	学年部会研究 指導案研究
9月3日	全体研究 指導案最終検討
10月1日	研究授業および研究会（保坂久信先生 甲府市立北東中学校 1年） 「魅力を伝える言葉を選んで書いた鑑賞文を、読み合おう」 ～観点を明らかにして、作品の魅力を書く～
11月5日	県教研環流報告と今年度のまとめ 来年度の方向性について
1月21日	講演会（小中合同） 講師：須貝千里（山梨大学人間教育学部教授）

- ・ 県教研・全国教研に提出した研究の経過と内容

「魅力を伝える言葉を選んで書いた鑑賞文を読み合おう」

～観点を明らかにして、作品の魅力を書く～

鑑賞文の目的は作品の魅力を相手に伝えることである。作品の魅力を語り、観点を決めて魅力を分析し、根拠を明らかにして書くことが大切である。今回テキストとした葛飾北斎『富岳三十六景』の魅力を感じ取らせる工夫として、複数の観点を明らかさせることを試みた。自分自身の感性で感じ取った作品の魅力をどんな言葉で表現することが最適なのかという言葉を選び、吟味する経験を積むことで、日常的により適切な言葉で表現しようとする態度を育てたい。また、芸術作品を前にしたとき、人が美しいものを美しいと感じるためには、どれだけその芸術作品を受け入れることができるかが重要だと言われている。感動する心の幅を広げるためにも、今回のような鑑賞と表現の体験を積み重ねることが大切だと考える。

1 単元の目標等

(1) 目標

- ・ 自分が選んだ絵の魅力を分析しようとし、自分の考えをまとめようとしている。【国語への関心・意欲・態度】
- ・ 観点を明らかにしながら、作品の魅力を根拠や理由を明確にして書くことができる。【指導事項Bーウ】
- ・ 書いた文章をお互いに読み合い、題材のとらえ方や材料の使い方、根拠の明確さなどについて意見を述べたり、自分の表現の参考にしたりすることができる。【指導事項Bーオ】
- ・ 作品の魅力を表す語句を集め、文脈に応じて使い分けることができる。【言語についての知識・理解・技能】

【本指導計画において意識させたい「5つの言語意識」】

- ・ 目的意識：自分の選んだ浮世絵の魅力を伝えるために
- ・ 相手意識：一般の人に（保護者）
- ・ 方法意識：自分の選んだ浮世絵の魅力を複数の観点から分析することによって
- ・ 場面状況意識：作品の魅力を紹介する場面で
- ・ 評価意識：観点を明らかにして作品の魅力を書くことができたか

2 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
①自分が選んだ絵の魅力进行分析しようとし,自分の考えをまとめようとしている。	①観点を明らかにしながら,作品の魅力を根拠や理由を明確にして書いている。ウ ②書いた文章をお互いに読み合い,題材のとらえ方や材料の使い方,根拠の明確さなどについて意見を述べたり,自分の表現の参考にしてている。オ	①作品の魅力を表現する語句を集め,文脈に応じて使い分けられている。(1)イ(ウ)

3 学習過程の概要

言語活動例		ア 関心のある芸術的な作品などについて鑑賞したことを文章に書くこと。				
指導事項		観 点 を 明 確 に し て 鑑 賞 文 を 書 き 、 読 み 合 い お う	重 点	学習活動	評価規準	時
ア	日常生活の中から課題を決め,材料を集めながら自分の考えをまとめること。【課題設定や取材】				1. 使われている言葉に注意して,教師が用意した浮世絵の鑑賞文を読む。	(関①)
イ	集めた材料を分類するなどして整理するとともに,段落の役割を考えて文章を構成すること。【構成】			2. 選んだ絵の魅力について友達と対話し,どうして,どこが好きなのか,自分の考えを明確にする。	(書①)	2
			○	3. 選んだ絵の魅力を観点ごとにワークシートに書き出す。構成の型に沿って文章を考える。複数の観点についてどのような順序で書くのかを決定する。	(書①)	3
ウ	伝えたい事実や事柄について,自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと。 【記述】		◎	4. 絵の魅力が読み手に伝わるように言葉を選び,鑑賞文の下書きをする。(原稿用紙1枚400字)	(書①)	4
エ	書いた文章を読み返し,表記や語句の用法,叙述の仕方などを確かめて,読みやすく分かりやすい文章にすること。【推敲】			5. 他の人からの意見も参考に,表記や語句の用法,叙述の仕方などに注意して文章を整える。絵の魅力が読み手に分かりやすく伝わっているかを検討し,修正する。	(書②)	5
オ	書いた文章を互いに読み合い,		○	6. 書いた文章を発表し合い,意見を述	(書②)	6

また、様々な資料を読み返したり、国語辞典や類語辞典も使いながら、言葉にこだわりながら作文を書こうという様子も見られたことは成果であった。

「5時間目：推敲の視点に沿って、文章の完成度を高めよう（推敲）」

一人が10枚程度の下書きを推敲する中で、様々なアドバイスを送り合うことができ、成果は十分にあったと思われる。原稿用紙の使い方や文字の訂正、より良い表現の提案などの書き込みが多く見られた。仲間の下書きを読むことで、自分の文章に取り入れたい表現を新たに見つけることができた生徒も多くいた。仲間の文章を読み合うことは生徒達の意欲を高める有効な手段であると感じた。

「6時間目：鑑賞文を読み合い、自分の考えを広げよう」

発表された鑑賞文に対して意見を述べ合うことで、自分の考えの広がり期待した。意見を出しにくい生徒に関しては、意見を述べ合う視点を書いた紙を掲示し、それを参考に話をするように促した。一人の持ち時間は約6分。発表に2分、意見交換に2分、付せんへのコメントを書く時間が2分という配分を基本とした。作品を褒める意見が多くあったことはよかったが、さらによいものにするためにという視点をもっとあってもよかったと思う。日常的に共感的な見方や疑問を持つこと、批判的な意見の大切さを話してきたが、この場では共感的な見方に終始してしまった。また、意見を述べ合う視点の数が多く、生徒の話がつながりにくくなってしまった。

IV 研究の反省と課題

生徒に敬遠されがちな作文の授業であったが、使う教材を吟味し、書きやすくするための工夫を凝らすことで、ほとんどの生徒がこの授業を楽しんでくれたようである。また、語彙を豊かにするための工夫をすることで、生徒達は日常生活ではなかなか使うことのないことばを使って文章を書くことができた。今回の学習で明らかになった成果と課題を検討し、今後の「書くこと」の授業で課題の解消をねらいたい。

「学習指導の成果」：○生徒に書くことを楽しませることができた○生徒が積極的に学習に参加した○示した成果物が有効に活用されていた○生徒の文章作成上の弱点を把握することができた○掲示した資料から生徒がより良い言葉や表現を探ることができた○生徒に交流の効果を気づかせることができた○新しい言葉を獲得するきっかけづくりができた

「学習指導の課題」：●評価Cの生徒への補助資料の使い方（何を、いつ、どのようにあたえることが有効か）●小学校時の学習の振り返り（既習学習内容の把握と活用の方法）●類語辞典の使い方の指導（類語辞典に慣れさせるための指導方法）●書くことへの苦手意識を解消するための指導方法●助詞の使い方の指導方法●段落相互のつながりを意識して文章作成させるための指導方法●同じ言葉を繰り返し使ってしまうことを解消する指導方法●言葉の使い方の間違いを解消するための指導方法●新しく学習した言葉を自分のものとさせるための指導方法●交流を効果的に行わせるための指導方法●交流時に意識させる観点の設定